



二俣川小だより



9月号

横浜市立二俣川小学校 平成30年8月27日
発行責任者 校長 池田 千晶

居場所

池田 千晶

空に赤みが混じって薄暗くなり始めたころ、色とりどりの提灯が変わり始めた空に映えます。太鼓の音色と共に、涼しげに着飾った人々が行き交います。日常とは違った景色に、そこにいる子どもたちの表情もひと際嬉しそうです。



この夏に地域の夏祭りにお邪魔した時の風景です。そこで感じたことは、地域の方々が子どもたちの居場所をつくってくださっているということです。自治会のテントでは地域の方が「年々運営も難しくなっているけれども、子どもたちのために残していかないとね」と語っておられました。

今、国でも地域学校協働活動として、様々な機関と緩やかな連携を図り、学校はもちろん、地域社会全体で24時間子どもを育てていけるようにしようという動きがあります。平成30年3月から本校にもキッズが開設されました。キッズになってから、利用する子どもの数は右肩上がり、先日行われたキッズの夏祭りでは167名もの参加がありました。スイカ割りやビー玉コマ作りやヨーヨー釣りなど思う存分楽しんだようです。日常的にも100名近くの子どもの参加しています。16名のスタッフの方々が、熱中症にならないように、しかも子どもの興味関心が満たされるような内容を子ども目線で工夫してくれています。7月の夏休み号に「内なる豊かさ」という内容で書かせていただきましたが、きっとキッズに来ていた子どもたちはスタッフの方や友達と関わりながら夏休みならではの体験をいっぱい心に詰め込んだのではないのでしょうか。また、それぞれのご家庭でもイベントはもちろん、日常の何気ない関わりも長期の休みならではの体験をし、心の栄養をたくさん詰め込んだことでしょう。



学校や家庭をはじめ、夏祭りやキッズのように、それぞれの子どもが成長していくためには、子どもの居場所が必要です。その内容は一人ひとり違うかもしれませんが。しかし、共通していることは、その居場所に人がいなくてはならないということです。私たち大人が、どのような人と人を繋ぎ居場所を創れるか。学校も子どもが安心して豊かに過ごせる居場所づくりをさらに進めるとともに、地域の方々とも考えてきたいと思っています。

最後になりましたが、夏休みの間、飼育や水やりボランティアに携わってくださった皆さま、本当にありがとうございました。子ども同様、英気を蓄えた職員一同、9月も全力で教育活動に取り組んでまいります。ご理解・ご協力よろしくお願ひいたします。